令和6年度 岡山県立矢掛高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和6年6月21日（金）14:10～16:55

場所：岡山県立矢掛高等学校会議室

欠席者：小野秀明

司会：田中宏和

書記：吉岡雄志

【委員】

入野 晶彦	地域住民（山陽新聞矢掛支局支局長）
奥村 美恵	地域住民（矢掛高等学校高校コーディネーター）
小野 秀明	学識経験者（矢掛中学校校長）
金子 晴彦	地域住民（前矢掛町観光交流推進機構理事長）
小寺 康弘	保護者（矢掛高等学校PTA会長）
妹尾 一正	地域住民（矢掛町役場矢掛高等学校支援特任参事）
檜崎 裕志	地域住民・学識経験者（元中学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長）
藤原 立志	地域住民・学識経験者（元小学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長）
堀 伸二	地域住民（備中西商工会副会長、矢掛町観光交流推進機構理事長）
宮本 浩治	学識経験者（岡山大学大学院教育学研究科教授）
高月 秀人	矢掛高等学校 校長

【事務局】

田中 宏和	矢掛高等学校 教頭
瀬尾 洋司	矢掛高等学校 事務長
吉岡 雄志	矢掛高等学校 主幹教諭、E S D課長
植田 雄介	矢掛高等学校 教務課長
松川 大記	矢掛高等学校 生徒課長
藤島 順子	矢掛高等学校 進路課長

【次第】

1 開会

- ・校長挨拶
- ・自己紹介
- ・学校運営協議会規則の説明（pp.3～14）

2 会長・副会長の選出

- ・会長：
- ・副会長：

3 会長挨拶

4 説明

- ①本日の日程 (pp.1～2)
- ②学校生活の概要 (学校案内)

5 協議

- ①令和6年度学校運営計画及び組織編成 (学校要覧・学校案内)
- ②令和6年度学校予算 (pp.15) 【事務長】
- ③教育課程 (学校要覧) 及び年間行事予定 (pp.16～17)
- ④学校評価書の具体的計画と達成基準について (別冊資料・pp.18)
- ⑤「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について (pp.19～24)
- ⑥矢掛高校の今後の方向性について (pp.25～34)
- ⑦その他

6 連絡

- ①今後の運営協議会について
 - ・第2回：11月●日 (●) ・第3回：2月●日 (●)
 - ・令和5年度は第2回：11月7日 (火)、第3回：2月20日 (火) でした。
- ②その他

7 閉会

- ・副会長挨拶

【議事録】

1 開会

校長挨拶

本校の学校運営協議会委員を受けていただき感謝する。任命書が机上にある。小寺 PTA 会長、妹尾特任参事が新しい委員。本日の朝刊で6月19日に調印した矢掛町と矢掛高校の包括協定の記事が出ていた。令和6年度入試では近隣の普通科が大きく定員を割る中、本校の倍率は1.15倍であった。本校の信頼度を高め、魅力化を図るとともに町との連携を強化したい。本日は本校の教育活動について委員の皆さんも一緒になって考え、知恵を絞って行ってほしい。

自己紹介

それぞれ紹介

学校運営協議会規則の説明

教頭

会議資料3～14ページにあるとおりである。学校をよくするために学校運営協議会でしっかり議論したい。守秘義務を負う。岡山県立学校における学校運営協議会の設置について規則の変更があったが、本校の場合は特に影響はない。

2 会長・副会長の選出

立候補なし。

学校側から会長に檜崎委員、副会長藤原委員を提案し、承認された。

3 会長挨拶

檜崎

不安があるが、会長職を務めていきたい。小寺 PTA 会長は矢掛町外であるが、矢掛町外の方がいらっしやることは心強く、刺激になる。その他にも金子委員、入野委員のような矢掛町外の方の意見が矢掛高校の発展につながると思う。意義のある議論をして委員ができることを模索したい。

4 説明

①本時の日程

教頭

協議では学校側からいったん①～④の説明をして、協議する。その後、⑤～⑦の説明をして、協議する。

②学校生活の概要

校長

学校要覧と学校案内を用いて学校の概略を説明。

生徒数は 290 名。1 年生は 115 名である。普通科は 80/80、地域ビジネス科は 35/40 である。地元の矢掛中学校の卒業生の約 45%が本校に入学しており、手ごたえを感じている。その他にも真備、井原から進学してきている。自転車より井原線を使って登校している生徒が多い。令和 5 年度の卒業生のうち 15 名が国公立大学に合格した。総合コースからも 2 名の合格があった。スクールガイドは生徒が中心となって完成させた。2 ページに矢掛町からの充実したサポートを示している。探究コースは充実した進路指導の成果として 60%が国公立大学に進学している。総合コースは地域の方にお世話になっている。やかげ学の成果についても検証していきたい。地域ビジネス科は、資格を活かしたり、地域の方に鍛えてもらったりしながら進路実現を目指している。昨年度から全国募集を開始し、普通科の学区を全県へと拡大した。

5 協議

規則により、会長が議長となる。

①令和 6 年度学校運営計画及び組織編成

校長

会議資料 25 ページに示したように本年度の重点的な目標は、(1) 地域との連携を深化させ、生徒の成長が地域の魅力化へとつながる高校づくりを力強く推進する。(2) 各コースの特色と少人数クラス編成の強みを活かし、個々の生徒の可能性を丁寧に伸ばす。(3) 地域からの学びとユネスコスクール等の活動を通じて、生徒の地域的・グローバル的視点を幅広く伸ばす。ことである。

魅力ある高等学校づくりの取組は会議資料 26 ページのとおりある。本校では教育活動を推進する者と広報を担当する者を役割分担している。

②令和6年度学校予算

事務長

(会議資料 15 ページについて説明)

約 3000 万円で運営する。1～6 は県からの予算であり、7 は矢掛町からの補助金である。昨年度より少しアップしている。PC 更新用の金額が増となっている。

③教育課程及び年間行事計画

植田

教育課程は学校要覧のとおりである。令和6年度から全学年新教育課程になった。

年間行事計画は会議資料 16～17 ページのとおりである。

④学校評価書の具体的計画と達成基準について

吉岡

会議資料 18 ページに学校自己評価年間計画を示している。

各分掌から別冊資料について説明する。

教務課 (植田)

授業改善を継続的に行う。県教育センターから指導主事を招き研修を行う。各課で企画した行事を円滑に実施できるように教務課で調整を行う。

生徒課 (松川)

前向きにチャレンジできる生徒になるような声かけを行う。警察署と連携をとり、安全教室を行う。服装の乱れがある。ルールやマナーを守ることを身につけさせたい。生徒会と連携して、矢高祭等を通じて積極性を育てていきたい。やや消極的な生徒がいる。いろいろな場面で成長できるようにチャレンジしてほしい。挨拶などもしっかり指導していきたい。

進路課 (藤島)

多様な生徒が自分の最適な進路を決めていけるように面談やスタディサプリなどを利用した学習を進めたい。主体的な進路決定のための取り組みを行っていく。マナーに関する声かけも行う。やかげ学やだっぴ等の校外での活動も進路に生かしていきたい。

ESD 課 (吉岡)

消極的な生徒も背中を押してやればやる気になる。ボランティア等が進路に直結するよう研究し、積極的な参加と質的な向上を目指したい。

【質疑】

入野委員

矢掛町矢掛高校魅力化事業予算は昨年度は 1600 万だが、減額されたのか。代ゼミ講師の派遣費にもっと使ってはどうか。

事務長

代ゼミ講師は年2回程度招聘しており、余剰は返金している。

入野委員

内容を見直して精度を上げていきながら効果的に使えるようにする必要があるのではないか。矢掛高校への進学率を上げるために有効に使えるようにしていく必要がある。

事務長

執行残がないように効果的に使いたい。町外の生徒も補助する事業は県下でも例がない。有効な方策を研究したいので、良い案があれば提案してほしい。

入野委員

通塾の金額が低いのではないかと。金額はどのように決まっているのか。

事務長

校長をはじめ高校側と町教委とで議論している。なお、昨年度までは被服費サポート、端末費サポート、通学費サポート、通塾費サポートのいずれか1つであったが、今年度から拡充され、被服費サポート、端末費サポートから1つ、通学費サポート、通塾費サポートから1つ選択できるようになった。通学費サポートの上限も上昇した。

妹尾委員

議会ではしっかり使うように言われている。使う項目は年度途中でも教育委員会と議論しながら決めていけばよいと思う。PRも大切。記事やTVで校長などが直接矢掛高校のことを説明する機会があってもよいのではないかと。

宮本委員

教師用教材教具の予算増について、教員からの要望があるのか。予算が付いたことによる効果はどうか。

事務長

年度初めに教員の要望を聞き、精査して予算配分している。効果は今後しっかりみていく必要がある。

宮本委員

矢掛高校の良さやウリは何か。こんな学校にしたいからこんなことにお金を使いたいという要望になっているか。

事務長

一つは「少人数教育」である。細かなところにも目を向け、必要なものは購入して生徒の教育環境の充実にあてる。

教頭

昨年度の学校運営協議会で「探究的な授業になっていないのではないか」という指摘に対して、授業改善を行っている。授業改善のために必要な教材や教具が増えたと考えている。

宮本委員

少人数教育の徹底と結果がどのように地域に伝わっているのか。

校長

どこの学校も「少人数教育」をうたっているため差がないのではないかと。中学校は高校入学までしか見えていないように思う。高校卒業後の進路を示して矢掛高校の教育力の高さを中学校側に示している。PBLなどを行うフィールドが整備されている。総合コースの生徒への教育活動を強化している。今までの生徒に比べて提案する生徒が増えてきた。

宮本委員

矢掛中学校からの進学率が45%ではまだ少ないと思う。もっと情報発信しなければならない。地域で学ぶことはどの学校でも行われている。地域学の効果をどのように示すか。生徒の姿や変容しかない。学校として研修の計画はあるのか。地域と関わることも研修である。

吉岡

ESD 課では4つのカテゴリーに分けている。地域を知る、地域を見る、地域に出る、地域について考えるまで様々な経験をしていくような流れを考えている。しかし、新しい研修を入れる隙間がない。お金がなくてもできることを考えるのが工夫である。お金の使い方としては人を増やしてくれるのが一番ありがたい。まずは矢掛中学校の生徒が矢掛高校に進学することが普通になるようにしたい。そのうえで例えば工業の勉強がしたいとか、硬式野球がしたいということになればそのほかの学校に進学するしかない。

校長

矢掛高校に赴任した教員としてどのような心構えで業務を行うかは「矢掛高校の授業理念」をまとめる中で共有している。中学校は矢掛高校を特別扱いすることはない。また生徒・保護者の希望を中心とした進路指導になっている。矢掛中学校の生徒の60%が矢掛高校に進学する体制を整えるためのキーワードは「顔の見える交流」だと考えている。中学校の授業を見に行くことで様々な効果があった。その一つに矢掛高校への特別感を持ってくれたことがある。12年間の切れ間のない教育を構築していきたい。中学受験で都市部に進学する生徒がいる。新しい刺激を求める生徒がいる一方で、12年間の切れ間のない教育のメリットを小中高で協力して示していきたい。

宮本委員

地元の中学生全員が普通に矢掛高校に進学する環境が理想である。その環境を整備するために今あること以外のことでできることがあれば考えてほしい。

⑤高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業について

吉岡

(会議資料 19～24 ページについて説明)

昨年度までの高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業はどのようにコーディネーターを確保し、どんな仕事をしてもらうかという内容であった。令和6年度からの高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業はコーディネーターをどのように育成し、コーディネーター同士のネットワークをいかに広げていくかという研究である。県教育委員会からは矢掛高校のコーディネーターは質が高いと評価を受けている。高校コーディネーターがいるからこそできる事業は何なのか、矢掛高校でできないことは何なのか、矢掛高校生に合ったPBLの在り方とはどんなものか、研究していきたい。矢掛高校でもいいかと言って入学した生徒が矢掛高校でよかったと言って卒業し、卒業生が母校に帰って後輩に声掛けをするというスパイラルの質と量を高めていきたい。

⑥矢掛高校の今後の方向性について

校長

(会議資料 27～34 ページについて説明)

矢掛中学校から60%以上の生徒が本校に入学することが目標である。少人数で丁寧に指導するのはもちろん、各コースの生徒をどのように伸ばすのか、伸びる授業はどのようなものなのかを考えていきたい。矢掛高校の活動の強みをどのように活かせば、学力+αの力がつくのかを考えたい。体験学習を行うだけではなく、どんな力をつけたいのかを明確にする。矢掛町と包括協定を結んだことで具体性をもって矢掛町と矢掛高校は協力していくという態度を示した。矢掛高校の白壁は本校のアイデンティティでもあるのでぜひ残したい。

⑦その他

特になし。

【質疑】

妹尾委員

やかげ学は地域学として他に自慢できる。時代とともにどんな変化があったか。事業所からどこまで指導すればよいか分からないという話を聞くことがある。地域探究の「究」はなぜ研究の「究」なのか。

吉岡

はじめは生徒指導の色合いが強く、トイレ掃除でもいいからやらせてほしいということからスタートした。今は活発な生徒が少なく、おとなしい生徒が増えた。実習先として保育園が減ったり、美術館がなくなったりした。一方で矢掛町役場が受け入れてくれるようになった。今の力を伸ばして進路決定につなげたいと考えている。事業所との連携は年度初めに挨拶に行き、2学期からの実習前に打ち合わせを行い、年度末に振り返りを行っている。探「究」なのは、求めると言うよりも究めると言う意味が強い。

藤原副会長

情報発信をしっかりしてほしい。やかげ学がどのように生きていったか。役場のほうで成果を検証して、高校でフィードバックしてはどうか。個々に対応した支援ができています。様々な課題がある中で多くの良い評価を得ている。学校評価書には成果をもっと書いて、誰が読んでもわかるようなものにしてほしい。卒業生の大学生に学校運営協議会に入ってもらいたいものではないか。ESD 課の中でボランティアを精選するというものがあるが、無理がない程度に生徒が活動する機会を設定してほしい。地域ビジネス科の生徒が地元住民に簿記の先生となる学習教室を企画してはどうか。

小寺委員

矢掛高校は学校の雰囲気が良い。保護者としても矢掛高校が好きである。PTA 会長は今まで矢掛町内の人が多かったようだが、矢掛が好きだったので PTA 会長を引き受けた。

吉岡

情報発信は特にどんなところにすればよいか教えてほしい。

妹尾委員

やかげ学を経験した卒業生の話をフィードバックすることはできる。

宮本委員

情報発信は十分に行っている。奥村コーディネーターは素晴らしいコーディネーターである。奥村コーディネーターをもっと大々的に取り上げて、どれだけ生徒が成長しているか、どんな業務内容であるか、矢掛町からどんな支援があるかなどを伝えたりする必要がある。やかげ学を学んだから矢掛町役場に帰ってきたと言う卒業生も紹介してはどうか。金子さんや矢掛町に帰ってきた人を PR していくとよいのではないか。

吉岡

コーディネーターの業務内容を誰が発信していくのか。

宮本委員

コーディネーターが複数いるならコーディネーター同士で紹介していくとよい。生徒が発信していく方法もある。隠岐島前にはアイドルコーディネーターがいる。奥村コーディネーターを名物コーディネーターとして森分コーディネーターと相互で紹介してはどうか。

奥村委員

やりたいことをやらせてくれる普通科が矢掛高校だと思って入学してきた生徒がいる。やりたいことをやっていける環境を作っていく方向でやっていきたい。起業家を育てるつもりで指導すれば町が活性化すると思う。

矢掛町からのサポートは矢掛中学校出身者からみるとメリットがあまり感じられない。

少人数制は何人か。小学校のころから 7 人クラスなので、現状ではあまり少人数と感じられない。

教頭

3クラスを4クラスに分けていたり、教員1人に対して5人程度の生徒で授業が展開されていたりするので、今のままで十分少人数と考えていた。少人数の在り方を考えるよいヒントになったと思う。

金子委員

小中高で12年。地域を知るのには時間がかかる。故郷の大切さがわかるような情報を提供していく必要がある。矢掛町は故郷になりえると思う。そのために矢掛高校がどうあるべきなのかを考えてほしい。

吉岡

藤原委員からボランティアの精選と言う話があった。できるだけボランティアを受けたいが、パンクする生徒もいる。適性を見てボランティアを勧めたい。勉強と地域学は両輪である。

檜崎会長

地域ではポスター作りなどを簡単に学校に頼もうとする人がいる。学校が精選すればよい。

入野委員

入学者数を維持するために継続的な取り組みが必要である。入学者100人を切ったら統廃合の検討、80人を切ったら募集停止と言う基準が厳しい。5月27日に「在り方検討委員会」が行われたが、この委員会は今後力を持ってくるのではないか。山岡町長を通じて今後意見を伝えていく必要がある。旧帝大合格などのPRをしっかりとすべきである。

妹尾委員

サンデー毎日に全国の国公立大学合格者が出ている。ローソンで買える。5万部発行されていると聞いている。PRになる。なぜ矢掛高校を選んだのか、逆に選ばなかったのか、保護者への情報発信をしっかりとする必要がある。

自己評価の項目が数値で比較できるようになればわかりやすい。

檜崎会長

時間が迫っているので、終了にしたいが、今後もこうした会以外の場でも話ができるようにしていきたい。

6 連絡

教頭

第2回、3回は多くの方がそろうような日程に調整したい。

7 閉会

藤原副会長

運営協議会は矢掛高校の応援団である。学校が頑張っている良さをそれぞれが自分の口で伝えてほしい。やかげ学の良さは一言でいうと何かという感じで伝えてほしい。地域と学校の一体化が必要で矢掛町と矢掛高校はそのモデルとなっている。今年度の予算と重点はどのようになっているか。費用対効果も意識してほしい。